

作成日 2019年11月08日

改定日 2019年11月22日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 アクティヴガasket AG08
 会社名 株式会社アサヒ産業
 住所 埼玉県川口市朝日4-21-62
 担当部署 営業グループ 空調部
 担当者名 諸岡 厚志
 電話番号 048-227-5121
 ファックス番号 048-227-5122
 整理番号 SDS2019-0005

2. 危険有害性の要約

GHS分類 物理化学的危険性 : GHS分類に該当するデータなし
 GHS分類に該当しない他の危険有害性 : 特になし
 GHSラベル要素
 絵表示 : 該当なし
 注意喚起語 : 該当なし
 危険有害性情報 : 該当なし
 注意書き : 該当なし

3. 組成及び成分情報

(ガasket)

単一製品・混合物の区分 混合物

一般名 NBRと無機成分の混合発泡体

主要原料・添加物	CAS No.	含有量 (%)
主要原料 : アクリロニトリル・ブタジエン共重合体	9003-18-3	40
添加物 : アルミナ (Al ₂ O ₃)	1344-28-1	20
添加物 : タルク	14807-96-6	18
添加物 : メルカプトベンゾチアゾール	95-16-9	3
添加物 : リン酸ジフェニルクレジル	26444-49-5	5
添加物 : アゾジカルボキサミド	123-77-3	5
添加物 : 流動パラフィン	8042-47-5	8

添加物 : ペンタエリトリトールテトラニトラート	115-83-3	1
--------------------------	----------	---

(粘着剤)

単一製品・混合物の区分 混合物

一般名 未加硫ブチルゴム

主要原料・添加物	CAS No.	含有量 (%)
主要原料 : イソブチレン・イソピレン共重合物	9010-85-9	30
付加物 : タルク	14807-96-6	32.5
添加物 : 炭酸カルシウム	471-34-1	10
添加物 : ポリブテン	9003-27-4	10
添加物 : レジン	67891-77-4 182238-6-8	12.5
添加物 : その他 (酸化防止剤など)	—	5

(りけい紙)

単一製品・混合物の区分 混合物

一般名 紙

主要原料・添加物	CAS No.	含有量 (%)
主原料 : セルロース	—	60.2
表面材 : 低密度ポリエチレン	9002-88-4	38.5
表面材 : 珪素化合物 (シリコーン)	—	1.3

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所に移動させ安静にする。症状によっては医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 常温では無害。高温熔融状態では火傷を起すため、患部を多量の清浄な水で洗い、冷やした後火傷の応急処置をする。
: 熔融状態の粘着材が皮膚に付着した場合、洗浄後火傷に対する措置を行なう。衣類が皮膚に貼りついている場合、無理に剥がしてはならない。必要によって医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で洗浄し、症状によっては眼科医の診断を受ける。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を継続する。
- 飲み込んだ場合 : 極力吐き出させた後、水で口の中を洗浄し、症状によっては医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消化剤	: 消化器 (粉末・泡沫・炭酸ガス)、防火砂、大量の水
火災時の特有の危険有害性	: 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガス (アセトアルヒド、CO、CO ₂ など) を発生するおそれがある。
特有の消火方法	: 不完全燃焼時には、黒煙が発生するので、閉鎖された場所における消火にあたっては、酸素ボンベ等の呼吸に必要な酸素を供給することができる装備をした上で消火作業を行なう必要がある。
消火を行なう者の特別な保護具及び予防措置	: 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 鼻や口からの摂取、眼に入らないように留意する。
保護具及び緊急措置	: 特に保護具などは必要ない。
環境に対する注意事項	: 環境においては長期間分解せず、環境汚染の原因となるため、河川などに放出しない。海洋生物、鳥類が誤って食べることがあるので、いかなる海洋や水域にも投棄、放出をしてはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 地面や床面に落ちた場合、足下を滑らせる危険があるので、速やかに掃き集める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱いや設備での注意	: 禁煙、周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
保管上の注意	: 指定可燃物 (合成樹脂類) に該当するため、火気厳禁。雨水などがかからないように注意する。直射日光、白熱灯や水銀灯等高温や強い紫外線を出す照明の近くには、保管しない。また、保管場所は施錠して保管する。
概要	: 適切な取扱いを行なう限り、人体に悪影響を及ぼしたという報告は、これまでにない。
毒性	: 適用されず。
人体への影響	: アレルギー体質の方は、接触により皮膚障害を起す可能性あり。必要に応じて、触れた箇所を石鹸にてよく洗浄する。症状によっては医師の診断を受ける。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	: タルクは、ACGI 1 1 (1989~1990 年度版) TLV (吸入性粉じんとして、アスベスト不含) に該当 2m g/m ³ (TWA)
	: レジンは、日本産業衛生学会 (1992 年度版) 第 3 種に該当 2m g/m ³

(吸引性粉じん)・8m g/m³ (総粉じん)

設備対策 : 通常の手扱いは問題ない。
 保護具 : 通常の手扱いは必要ない。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : やわらかいシート状
 色 : 黒色
 臭い : わずかな臭気
 融点 : 約400℃ (ブチルゴム含有ポリブデン)
 沸点又は初留点及び沸点範囲 : データなし
 可燃性 : あり
 引火点 : 236℃ (ブチルゴム含有ポリブデン)
 : 260～290℃ (ブチルゴム含有レジン)
 分解温度 : データなし
 pH : 該当しない
 溶解度 : 水に不溶
 蒸気圧 : データなし
 粒子特性 : データなし
 比重 (相対密度) : データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : 通常の手扱いにおいては安定である。
 化学的安定性 : 一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定である。なお、危険物第四類第4石油類に該当するで、所定の手扱いが必要。
 危険有害反応可能性 : 一般的な貯蔵・取扱いにおいては安定である。
 避けるべき条件 : 高温に曝されると、分解し可燃性ガスを発生する。
 混触危険物質 : 強酸化剤、濃硫酸、フェノールと混色させない。又、火気に近づけない。
 危険有害な分解生成物 : 燃焼時によりH₂O、CO、CO₂、C₄、NOX、アセトアルデヒド等の有害ガスが発生するおそれがある。

11. 有害性情報

急性毒性 : 知見なし
 皮膚腐食性/刺激性 : 皮膚に付着した場合、かゆみや紅斑を生じることがあるが一過性で慢性の障害を生じることはないとされている。
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 眼以外に鼻、喉を刺激することがある。
 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 知見なし

生殖細胞変異原性	: 知見なし
発がん性	: 知見なし
生殖毒性	: 知見なし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 知見なし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 知見なし
誤えん有害性	: 知見なし

1 2. 環境影響情報

生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

1 3. 廃棄上の注意

廃棄の方法	: 各自自治体の条例に従って焼却などの処理を行なう。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。
-------	---

1 4. 輸送上の注意

注意事項	: 転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行なう。水漏れ、高温放置、直射日光を避ける。
米国の道路・鉄道法令情報	: 該当しない
国際海上 (IMDG)	: 該当しない
国際航空 (ICAO/IATA)	: 該当しない

1 5. 適用法令

消防法 指定可燃物 (合成樹脂類)	: ブチルゴムは消防法の指定可燃物 (品名: ぼろ及び紙くず、数量: 1000kg 以上並び合成樹脂類 3000kg) に該当する。 : ブチルゴムに含まれる成分は、消防法 第 9 条の 3, 危険物の規則に関する政令第 1 条の 12 にも該当する。 : ブチルゴムに含有するポリブデンは、消防法 危険物第四類 第 4 石油類 危険等級Ⅲ、毒物及び劇薬取締法の対象となっている。
東京都火災予防例第 3 4 条	: ガスケツ
労働安全衛生法 名称などを通知すべき危険物及び有害物	: (労働安全衛生法 第 57 条の 2 労働安全衛生法施行令 第 18 条の 2 別表第 9 人造鉱物繊維 (政令番号 314) /

(1.2%以下)

鉱油 (政令番号 168) : 0.2%以下

第2種有機溶剤等 (施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)

作業環境評価基準 (法第65条の2第1項)

各名称を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9)

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成していますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性などに関しては、いかなる保証をなすものでもありません。

また、注意事項は通常の手配を対象としたものなので、特殊な取扱いの場合、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

【参考文献】

- 1) 火災防止の手引き「ウレタンフォーム工業会発行」
- 2) 化学物質の危険、有害便覧 (中央災害防止協会編)
- 3) 産業中毒便覧 (医歯薬出版) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
- 4) 既存化学物質ハンドブック
- 5) 作業環境評価基準・労働安全衛生広報 (95.5.15)
- 6) 労働省平成9年指針告示7号
- 7) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成基準 (JIS Z7253:2019)